

LINE、オンライン診療アプリ参入 8000万顧客生かす

【イブニングスクープ】

2020/5/20 18:00 (2020/5/21 5:20更新) | 日本経済新聞 電子版



LINEは国内8000万人超の利用者基盤を生かしたオンライン診療アプリで、2000人以上の医師の利用を見込む

LINEは今夏にもオンライン診療事業に参入する。ビデオ通話機能を使い、医師が患者を遠隔で診断できる専用のアプリを立ち上げる。国内8千万人超の利用者を抱えるSNS（交流サイト）を生かし、2千人以上の医師の利用を見込む。病院や薬局への支払いを電子決済する仕組み作りも検討。オンライン診療は新型コロナウイルスの感染拡大で需要が高まっている。政府も規制を緩和する中、大きな顧客基盤を持つLINEの動きは普及を後押ししそうだ。

ビデオ通話のほか、同社の電子決済「ラインペイ」をオンライン診療アプリと連動させる。病院や薬局の多くはまだ電子決済に対応していないが、同社は各施設に導入を呼びかけていく。

イブニングスクープ

翌日の朝刊に掲載するホットな独自ニュースやコラムを平日の午後6時ごろに配信します。

LINEは診療アプリのサービス料を利用者から徴収する。医師や病院から月額料金をとるか、患者が払うかの形にする。オンライン診療は日本では新興企業が多く、利用料金は医師が支払う場合は数万円、患者負担の場合は1回数百円のケースが多い。資本力のあるLINEの参入によってこうした料金の引き下げが進む可能性がある。

オンライン診療は公的医療保険の対象だ。新型コロナを機に政府が規制緩和し、4月から初診を含めて特例で利用できるようになった。ただ、患者と医療機関の双方が同じサービスを使う必要があり、機器導入に費用や手間がかかることが普及の妨げになっていた。LINEは対話アプリで国内8千万人超の利用者がいる。なじみのあるサービスを入り口にすることで、患者や医師の心理的なハードルを下げて利用を広げたい構えだ。



本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.